



私のひとりごと

「勇気ある決断」

滋賀県に“あねがわ温泉”という温泉がある。そこは、伊吹山のすそ野を走る 365 号線沿いにある。周りに民家はほとんど無く、コンビニが一軒あるだけのとても淋しい場所だ。記憶は定かではないが、7～8 年前この温泉がオープンしてすぐの頃、偶然に通る掛かり温泉好きの私は迷わず足を踏み入れた。外観は茅ぶき屋根の古民家を彷彿とさせる趣のある建物である。入場すると若いお兄さんが「回数券はいかがですか！」と必死の営業。入浴料は 1,000 円と高目だったが、オープンしたてということもあり、それなりにお客様で賑わっていた。ただ、私としては心に感じる物は特に無く、大変失礼な話だが長くは続かないだろうと直感的に感じたほどである。その一度きりの利用後、記憶から遠のいていたが、最近知人から「伊吹山のすそ野に良い温泉があるね。」と聞いてハッとしたり。もしかして“あねがわ温泉”では？と問いただすと、間違いはないと言ではないか。失礼ながら、まだ続いていたのかと驚きもあったが、知人の勧めもあり、再度この温泉を訪ねてみることにした。ただし、そこで驚きの光景の目の当たりにすることになるうとは…。

私が再度、温泉を訪れたときには夜の 8 時を回っていた。看板は営業中となっているが、建物全体に灯りはほとんど無く薄暗い。玄関までのアプローチも足元に僅かな照明が灯っているだけ。いわゆる“大人の隠れ家”的な雰囲気である。入口の看板には小学生を含む子供の入場をお断りする旨として、「せっかくお越し頂いたのにごめんなさい。早く大きくなってこの温泉に来ることを楽しみにしていてね。」と書かれている。入浴料は以前と変わらないが、大きく変わったのは店内の照明の薄暗さと、風情のある琴の音色が流れていることである。フロントではお姉さん一人、笑顔で出迎えてくれるが言い様のない静けさで不安になる程だ。浴場までの長い廊下は畳敷きになっており、壁には四季折々の写真が展示され僅かな道のりでさえ楽しませてくれる。また廊下入口の立札には「長い廊下にはあいさつがよく似合います。」という粋な文句が書かれてある。浴場内も薄暗く、髭剃りすら禁止である。露天風呂の看板には「虫が発生します。湯船に落ちた虫は備え付けのアミで助けてあげてください。」と、これまた粋な心遣い。また、温泉を後にする際、雨が降っていたが、玄関マットには「雨の日にお越し頂きありがとうございます。」とダメ押しの心遣い。たったこれだけの事ではあるが、私にとってはとても衝撃的な事であった。



ここから先は私の勝手な想像で書かせて頂く事をお許し願いたい。これほどまでのイメージチェンジの背景には、かなりの客足の減少があったと想像される。悩んだ末、経営者は企業再生のスペシャリストに助けを求め、出された答えが“店側のこだわり”と“お客様の絞り込み”であったと考えられる。誰でも客足が減少すれば、だれかれ構わず一人でも多く集客したい考えがちである。しかしこの温泉の経営者の出した苦渋の決断は、“子供のお客様はとらない”という逆転の発想であった。お客様の年齢を“絞り込んだ”事により館内全てを大人の雰囲気を作り上げ、心身共に癒しを提供できる“こだわり”が生まれた。私はその後何度かこの温泉に足を運んでいるが、平日であっても館内はお客様で賑わっており、これは企業再生として成功した数少ない事例の一つではなからうか。ここまでサラリと書いたが、経営者の決断はとても勇気のいる事で、一つ間違えれば倒産と背中合わせである。なぜなら、必ず成功するというノウハウは世の中に存在しない。比較的的成功するであろうと思われるノウハウでさえ成功率は 2 割程度なのが世の常である。日本を代表する自動車会社「HONDA」の創業者である本田宗一郎氏の言葉に、「成功者は、例え不運な事態に見舞われても、この試練を乗り越えたら、必ず成功すると考えている。そして、最後まで諦めなかった人間が、成功しているのである。」とある。数多の失敗を繰り返した末に成功を収めた先人の、心に沁みる言葉である。

私は心に迷いが生じたとき“あねがわ温泉”を訪れることにしている。日頃のストレス解消に、また現状からの逃避行（笑）をお考えの方には是非お勧めしたい。

ではまた来月もお会いしましょう。
今月も最後まで読んでいただき…、

あーがしう
ごさいました!!

